

スペイン語のバリエーションに関する高校生の意識調査

廣瀬 瞳（慶應義塾大学）

スペイン語には地理的な言語バリエーションが存在し、国や地域によって語彙や発音、文法などが異なる。本発表では、日本の高等学校でスペイン語を学ぶ高校生（n=176）が、このようなスペイン語の言語的多様性をどのように考えているかについて、発表者が実施したアンケート調査の結果を報告する。

具体的には、(1) スペイン語に地理的バリエーションが存在することについてどう思うか、(2) スペイン語を学習した上でのスペイン語に対するイメージはどのようなものか、(3) 出身地の異なる母語話者及び非母語話者のスペイン語をそれぞれどれくらい「正しい・見本にしたい」と思うかという質問に対する結果を提示し、高校のスペイン語教育における言語的多様性の扱いに関して、教科書や教師が提供しているイメージと高校生が持っているイメージを比較する。